

理事長挨拶

東京大学大学院総合文化研究科 教授
長谷川壽一（はせがわ としかず）

本年6月より理事長を務めることになりました。至らぬ事も多々あると思いますが、この先の2年間、どうぞよろしく願いいたします。

日本心理学会の主たる役割は、研究成果の発表機会の提供、会員相互の交流、そして社会に向けた啓発活動です。それぞれについて、これまでの蓄積をふまえつつ、さらに前に進める努力をしていく所存です。

年次大会の開催は、従来、開催校に多大なご負担をかけてきましたが、経費ならびに運営面で、学会からのサポートを更に手厚くするようにいたします。また、次世代の人材育成に向けて、年次大会に学部学生、さらには高校生にどう関わってもらうかについても、先駆的な他学会での活動を参考にしつつ、検討を始めたところです。機関誌については、編集・審査体制の一層の効率化、インパクト・ファクター向上の方策等について議論を進めます。

会員交流に関しては、佐藤前理事長の構想を継承し、新たな部会制度の設計に取り組みます。専門部会と地方部会という、いわば縦横の糸を織る仕組みについて、遠からず原案をお示しできるものと考えています。社会的な啓発活動については、これまでも公開シンポジウムやホームページ、心理学叢書等を通じて、心理学研究の成果を広く発信してきましたが、来年に迫った国際心理学会議（ICP2016）の横浜開催に合わせて、「社会の中の心理学」を強くアピールしていく所存です。

そのICP2016ですが、実に44年ぶりに日本での開催となります。世界各国から数千名のゲストをお迎えすべく、実行委員会（繁榎算男委員長）を組織し、着々と準備を進めています。ICP2016では、とくに、これまで交流の少なかったアジア太平洋、アフリカ、中南米からの参加者との絆を強めたいと考えます。来年の年次大会との同時開催となりますので、会員の皆様と共に盛り上げていきたいと思っております。

認定心理士制度は、1990年の発足以来、今年で25年目を迎え、これまでに、実に47,000人以上の方々が資格を取得しました。学会としては、資格取得者の方々に今後も多様なリカレントプログラムを提供し、学会との交流を深め、心理学の裾野を広げていただきたいと願っています。

まだまだ不十分なところもございますが、会員諸氏のご意見を伺いながら、日本の心理学をますます発展させていきたいと存じます。簡単ではございますが、新任のご挨拶とさせていただきます。



Profile—長谷川壽一

1984年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。東京大学教養学部助手、助教授を経て、1999年より現職。専門は動物行動学、進化心理学。主な著書は、『進化と人間行動』（共著、東京大学出版会）、『はじめて出会う心理学』（共著、有斐閣）、『心の進化』（共編著、岩波書店）、『こころと言葉』（共編著、東京大学出版会）、『人間の性はなぜ奇妙に進化したのか』（単訳、草思社）、『ソーシャルブレインズ』（共編著、東京大学出版会）、『言語と生物学』（編著、朝倉書店）など。